

平安京右京二条二坊十二町跡・
西ノ京遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一九―二

平安京右京二条二坊十二町跡・西ノ京遺跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京二条二坊十二町跡・
西ノ京遺跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物建設に伴う平安京跡・西ノ京遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和元年11月

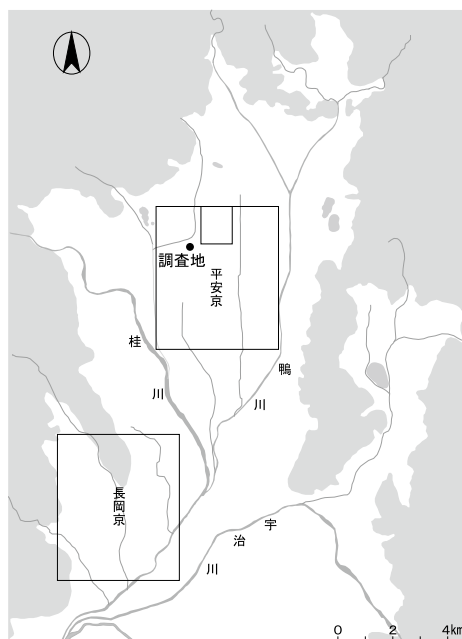
公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡・西ノ京遺跡（京都市番号 18 H 358）
- 2 調査所在地 京都市中京区西ノ京南上合町46番地
- 3 委 託 者 株式会社 菊水製作所 代表取締役 島田理史
- 4 調査期間 2019年5月14日～2019年6月6日
- 5 調査面積 174㎡
- 6 調査担当者 近藤章子
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「花園」・「山ノ内」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 近藤章子
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。

(調査地点図)



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 歴史的環境と立地	3
(2) 既往の調査	3
3. 遺 構	9
(1) 基本層序	9
(2) 遺構の概要	9
(3) 遺 構	9
4. 遺 物	17
(1) 遺物の概要	17
(2) 土器類	17
(3) 瓦類	20
(4) 石製品	20
5. ま と め	21

図 版 目 次

図版1	遺構	1 調査区西部全景（東から）
		2 溝8（北東から）
図版2	遺構	1 調査区東部全景（北から）
		2 拡張区 溝258（南から）
		3 井戸126（北から）
		4 土坑268（北から）
図版3	遺構	1 建物1A 柱穴64（北から）
		2 建物1A 柱穴204（東から）
		3 建物1A 柱穴236（東から）
		4 建物1B 柱穴237（西から）
		5 建物2A 柱穴25（南から）
		6 建物2B 柱穴13（南から）
図版4	遺物	出土土器

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	調査前全景（西から）	2
図4	作業状況（西から）	2
図5	作業状況（西から）	2
図6	社内説明会（北から）	2
図7	周辺調査位置図（1：5,000）	4
図8	調査区平面図（1：100）	10
図9	調査区南壁・西壁断面図（1：100）	11
図10	建物1 A・1 B実測図（1：80）	12
図11	建物2 A・2 B実測図（1：80）	13
図12	建物3実測図（1：80）	14
図13	柵1・2実測図（1：80）	14
図14	溝8・258、土坑14・15断面図、井戸126・土坑268実測図（1：40）	15
図15	土器実測図（1：4）	18
図16	軒瓦拓影及び実測図（1：4）	20
図17	石製品実測図（石1は1：4、石2は1：1）	20
図18	石製品（石2）	20

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	5
表2	遺構概要表	9
表3	遺物概要表	17

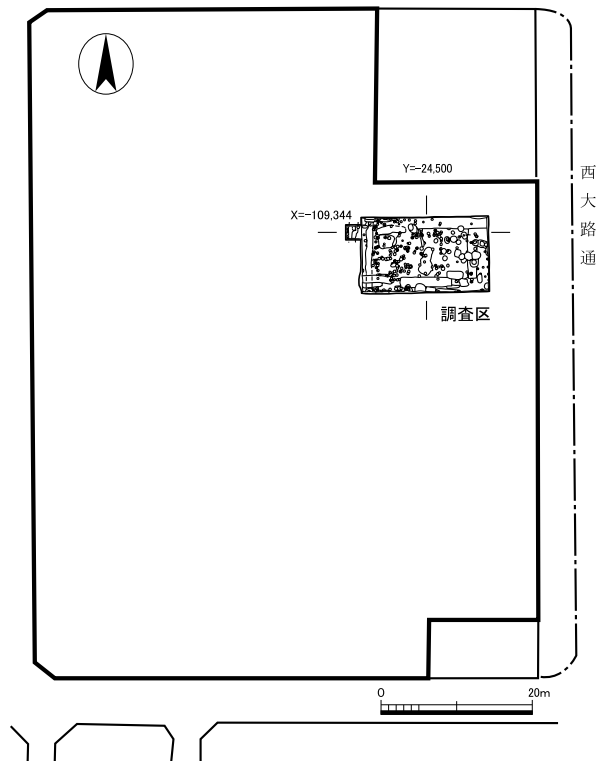


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)

ている（野寺小路川）ことが判明している。今回の調査でも野寺小路側で同様の遺構の検出が見込まれた。

調査は、場内で残土処理を行うため反転調査とした。2019年5月14日から調査区西半の調査を開始し、西半調査を終了後、調査区東半と西側の拡張区の調査をすすめた。西側拡張区は野寺小路川の有無を確認することを目的としたものである。6月6日にはすべての調査を終了した。

なお、調査期間中の5月29日には、菊水製作所社員を対象とした調査状況についての説明会を実施し、約50名の参加があった。

調査では、平安時代末期の野寺小路東側溝や掘立柱建物などを検出した。また西拡張区には、野寺小路川の痕跡は見られなかった。



図3 調査前全景（西から）



図4 作業状況（西から）



図5 作業状況（西から）



図6 社内説明会（北から）

2. 位置と環境

(1) 歴史的環境と立地

調査地は京都盆地の北西部に位置する。京都盆地はいくつかの扇状地によって構成されるが、調査地は紙屋川（天神川）の形成した扇状地上に立地している。紙屋川扇状地の扇頂部標高は約90m、扇端部標高は約30mであり、端部に近い所に当たる。調査地の標高は約37.5mである。紙屋川は右京区鳴滝の沢山を源流とし、鷹ヶ峯台地を東へ回り込み、京都盆地西部を南流して、西ノ京円町を経て流れを西に変え太秦の南東で御室川に合流した後、再び南流し吉祥院で桂川に合流する。現在のこの河道は、昭和10年（1935）の京都大洪水の後に付け替えられたものである。紙屋川は、平安京造営時に掘削された西堀川に流れを取り込まれ、京内の運河兼排水路となる。しかし、西堀川は平安時代中期には埋没し、西側に道祖大路川が掘削され、さらに野寺小路川が掘削されるが、野寺小路川も14世紀には埋没する。そして15世紀以降、天井川となった紙屋川は、円町付近から流れを南西に小さく変えた後、再び南流していた。今回の調査地は流れが南西に小さく変わる箇所の南東に当たる。

(2) 既往の調査

今回の調査地である右京二条二坊十二町及び十三町では、これまでの発掘調査例はなく、試掘調査、ガス・水道管などの道路における埋設や宅地における建設工事などに対する立会調査が主な調査例である。今回の調査成果に関わる調査例として、野寺小路と二条大路、西堀川小路周辺の主要な調査を取り上げた。西堀川小路が10世紀に埋没した後、野寺小路の道路部分には河川（野寺小路川）が掘削されている。

周辺調査では、主に平安時代前期から後期の遺構を中心として、鎌倉時代から江戸時代までの遺構・遺物が検出されている。特に調査34では平安時代中期前半の庭園を有する1町規模の邸宅（斎王邸）の全容が明らかとなった。平安時代以前の西ノ京遺跡に関する遺構・遺物は散見されるものの、ごく少量で、遺跡としてまとまった成果は見られない。

西ノ京遺跡（平安時代以前）

二条二坊十一町の調査8では、縄文時代の石器、弥生時代の石鏃・弥生土器を検出している。三条二条十町の調査20では、古墳時代の溝・土坑を検出している。それ以外の調査でも旧石器から縄文時代の石器や縄文土器、弥生土器、古墳時代の土器などが出土している。

平安京跡

二条二坊十二町・十三町 今回の調査と同敷地内の調査38では、平安時代末期や鎌倉時代の遺物包含層を検出している。調査10は平安時代後期の園池や掘立柱建物を検出している。調査12は平安時代中期の柱穴や井戸を検出している。いずれも試掘調査である。調査37では平安時代中期の包含層を検出している。

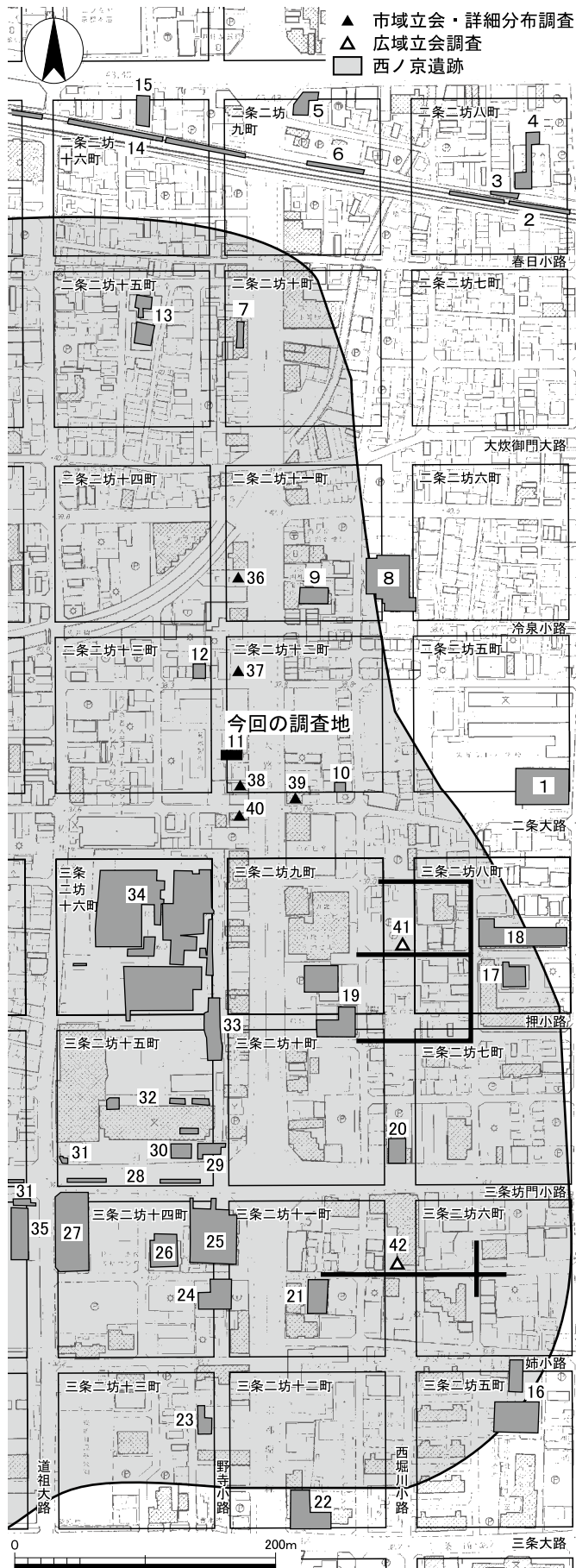


図7 周辺調査位置図 (1 : 5,000)

野寺小路 二条二坊九町から十六町にかけての調査14で、野寺小路西側溝を検出している。三条二坊十四町の調査24、十五町から十六町にかけての調査33では西側溝、調査25では東西両側溝を検出している。いずれも平安時代前期から中期の遺構である。また、調査24・25・33では、平安時代後期には野寺小路の路面部分が南流する水路となって、鎌倉時代から室町時代初頭までには埋没していたことが判明している。

二条大路 二条二坊五町の調査1では、二条大路北側溝や南北方向の溝を検出している。それ以外に立会調査で、西鞠負小路から野寺小路間の二条大路では、湿地状堆積や流れ堆積などが検出されているが、いずれも時期は不明である。また、調査40では平安時代中期から鎌倉時代かけての遺物を含む流れ堆積を検出している。調査面積が小規模なため、遺構としては捉えがたいが、人工的に掘削した水路などの遺構は検出されおらず、これらは西堀川の氾濫による堆積層と思われる。また、調査39では、平安時代後期から鎌倉時代の包含層を検出している。

西堀川小路 二条二坊十一町の調査8では、平安時代前期の西堀川小路路面、西側溝、西堀川を検出している。また、平安時代中期から室町時代の氾濫堆積を検出している。調査20では平安時代前期から中期の路面、西側溝、堀川を検出している。道路埋設管立会調査の調査41・42では、西堀川小路の堀川を検出している。

表1 周辺調査一覧表

番号	調査地区	調査方法	調査概要	備考	文献
1	二条二坊五町、 二条大路	発掘	平安前期～中期の二条大路路面・北側溝・内溝、区画溝、掘立柱建物、柵列、井戸。		1
2	二条二坊八町	発掘	平安前期の土坑。平安中期～後期の園池、溝、石敷、石組。 平安後期の西敷負小路西側溝、流路。	10A・10B区	2
3	二条二坊八町	発掘	平安中期～後期の池(園池)。近世の耕作土面。	A区	3
4	二条二坊八町	発掘	平安前期～後期の池(園池)、溝。平安中期の土壇(建物基壇)。		4
5	二条二坊九町、 中御門大路	発掘	平安前期～中期の土坑。中世以降の土取土坑。		5
6	二条二坊九町	発掘	平安前期の溝6、井戸3、石敷遺構、杭群。平安中期の整地層、溝2、井戸1。鎌倉の流路。	9区	2
7	二条二坊十町	発掘	平安前期～中世の柱穴群、井戸、溝、掘立柱建物、土坑。		6
8	二条二坊十一町、 西堀川小路	発掘	平安前期の西堀川小路(西側溝・路面・西堀川)。平安中期～室町の氾濫堆積層、井戸、土坑、路面。室町～安土桃山の耕作溝。安土桃山以降の御土居(土塁・堀)。		7
9	二条二坊十一町	発掘	平安前期～中期の掘立柱建物、柵列。中世の湿地状堆積、柵列、溝。		8
10	二条二坊十二町	試掘	平安後期の湿地状堆積(園池)、掘立柱建物。		9
11	二条二坊十二町、 野寺小路	発掘	平安末期の建物跡、柵、井戸、野寺小路東側溝など。		本報告
12	二条二坊十三町	試掘	平安中期の柱穴、井戸。		10
13	二条二坊十五町	発掘	平安前期の井戸、土坑。平安中期の掘立柱建物、柵列。鎌倉の整地層。江戸の耕作土。標高39.5mで始良Tn火山灰層。		11
14	二条二坊十六町、 野寺小路	発掘	平安前期の井戸。平安中期の柱穴、井戸、溝2(野寺小路西側溝?)。桃山の泥土堆積層。江戸の南北溝。	8A・8B区	2
15	二条二坊十六町、 中御門大路	発掘	平安の柱穴、土坑、溝、井戸。		12
16	三条二坊五町、 姉小路	発掘	姉小路南側溝、平安の建物7棟、柵4条、井戸1基、溝5条。		13
17	三条二坊八町	発掘	18の調査に連続する園池の一部、柱穴など。		14
18	三条二坊八町	発掘	平安の建物1棟、井戸2基、溝1条、園池の一部、川など。		15
19	三条二坊九町・十町、 押小路	発掘	平安中期の建物跡、柵列、後期の溝など。		16
20	西堀川小路	発掘	西堀川小路の堀川・路面2面・西側溝など。		17
21	三条二坊十一町	発掘	平安前期の建物。平安中期の整地層・溝など。		18
22	三条二坊十二町	発掘	建物3棟、平安前期の井戸1基、平安以前?の溝など。		19
23	三条二坊十三町	発掘	鎌倉～室町の土取跡、柱穴。江戸の耕跡。		20
24	三条二坊十四町、 野寺小路	発掘	平安中期の野寺小路西側溝、井戸、柱穴。平安中期～後期の野寺小路川。鎌倉の野寺小路川、堰など。		21
25	三条二坊十一町・ 十四町、野寺小路	発掘	三条坊門小路南側溝、野寺小路東西両側溝、柵2条、野寺小路川。		22

番号	調査地区	調査方法	調査概要	備考	文献
26	三条二坊十四町	発掘	平安前期の建物3棟と、区画施設などの柵または塀など。宅地割りは1/8町が想定される。		23
27	三条二坊十四町、 三条坊門小路	発掘	三条坊門小路南側溝、平安の建物8棟、門2棟、柵8条、井戸3基、道祖大路川など。		24
28	三条二坊十五町	発掘	平安前期の土坑、井戸、柱穴。室町の溝。		25
29	三条二坊十五町、 野寺小路	発掘	平安の建物、溝、柵、野寺小路川。		26
30	三条二坊十五町	発掘	平安中期の建物・溝。平安後期の溝。室町時代の井戸など。		27
31	三条二坊十五町、 三坊三町	発掘	平安前期～中期の三条坊門小路南側溝、道祖大路西側溝・道祖大路川など。		28
32	三条二坊十五町	発掘	平安の池、土坑、柵など。		29
33	三条二坊十五町・十六 町、野寺小路、押小路	発掘	平安中期の押小路両側溝、建物1棟、井戸1基。平安後期の野寺小路川。		30
34	三条二坊十六町	発掘	平安の建物群と建物・庭園・井戸・道路、「齋宮」などと記した多数の墨書土器。1町規模の邸宅。		29
35	三条三坊三町	発掘	平安中期の建物、井戸、道祖大路東側溝。		31
36	二条二坊十一町	立会	平安の包含層。室町の落込み。近世の耕作土。盛土が厚く堆積する。	98HR387	32
37	二条二坊十二町	立会	平安中期の包含層、土師器・須恵器・緑釉陶器・黒色土器。	01HR155	33
38	二条二坊十二町	詳細分布	平安末期の包含層。鎌倉の包含層、土坑、ピット。	13HR69	34
39	二条二坊十二町、 二条大路	立会	平安後期～鎌倉の包含層。	95HR362	35
40	二条大路	立会	平安中期～鎌倉の遺物を含む流れ堆積。	81HR109	36
41	三条二坊七町～十町、 西堀川小路	広域立会	平安中期の包含層、西堀川小路流路、溝。	83G-10-22	37
42	三条二坊六町・十一町、 西堀川小路	広域立会	平安の西堀川小路流路、遺物包含層、溝。	83G-10-23	38

文献一覧（表1 周辺調査一覧表）

- 1 東 洋一・網 伸也・真喜志悦子「平安京右京二条二坊」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 2 小檜山一良・小松武彦・平田 泰・長戸満男「平安宮左馬寮－朝堂院跡・平安京右京一・二条二～四坊」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 3 吉村正親・尾藤德行「平安京右京二条二坊（1）」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 4 北中恭裕ほか『平安京右京二条二坊八町跡－平安時代庭園跡の調査－』株式会社日開調査設計コンサルタント文化財調査報告書第4集 2011年
- 5 伊藤 潔『平安京右京二条二坊九町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-18 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2009年
- 6 辻 純一「右京二条二坊（3）」『平安京跡発掘調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年

- 7 高橋 潔・モンペティ恭代『平安京右京二条二坊十一町・西堀川小路跡、御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-25 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2014年
- 8 辻 純一「右京二条二坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
- 9 「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
- 10 堀 大輔「平安京右京二条二坊十三町跡・西ノ京遺跡 No.41」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年
- 11 平田 泰「平安京右京二条二坊(2)」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 12 南 博史ほか「平安京右京二条二坊十六町」京都文化博物館調査研究報告第14集 2000年
- 13 平尾政幸ほか「平安京右京三条二坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年
- 14 辻 裕司「平安京右京三条二坊1」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 15 堀内明博ほか「平安京右京三条二坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年
- 16 上村憲章「平安京右京三条二坊九・十町・西ノ京遺跡・御土居跡」古代文化調査会 2010年
- 17 平尾政幸ほか「右京三条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 18 モンペティ恭代『平安京右京三条二坊十一町』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-24 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 19 平尾政幸「平安京右京三条二坊」『平安京跡発掘調査概要 京都市埋蔵文化財研究所概要集1978』1979年
- 20 山口 真『平安京右京三条二坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2004-19 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 21 布川豊治『平安京右京三条二坊十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2006-1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 22 木下保明「平安京右京三条二坊2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 23 「平安京右京三条二坊十四町跡 島津メディカルプラザ新築工事に伴う発掘調査」『平安京右京内5遺跡 平安京跡研究調査報告第23輯』財団法人古代学協会 2009年
- 24 南 孝雄「平安京右京三条二坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 25 百瀬正恒ほか『平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 26 津々池惣一『平安京右京三条二坊十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-8 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 27 本 弥八郎「平安京右京三条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年

- 28 卜田健司『平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005 - 5
財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 29 網 伸也ほか『平安京右京三条二坊十五・十六町 - 「齋宮」の邸宅跡 - 』京都市埋蔵文化財研究所調
査報告第21冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 30 辻 純一「右京三条二坊（2）」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』財団法人
京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 31 南 孝雄『平安京右京三条二坊三町跡・西ノ京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012 - 13
財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
- 32 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年
- 33 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年
- 34 「調査一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成25年度』京都市文化市民局 2014年
- 35 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査概報 平成7年度』京都市文化市民局 1996年
- 36 「調査概要一覧表」『京都市内遺跡試掘、立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年
- 37 百瀬正恒「2章19 右京三条二坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵
文化財研究所 1985年
- 38 「昭和58年度 試掘・立会調査一覧表 No.20」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人
京都市埋蔵文化財研究所 1985年

3. 遺 構

(1) 基本層序

層序は、現地表面から順に近現代盛土、中世以降の耕作土（図9 - 南壁断面2～4層）、基盤層（地山）となる。遺構はすべて基盤層上面で検出した。地表面の標高は西が37.75m、東が37.5mである。遺構面となる基盤層は、砂礫層・シルト層・粘土層など場所により異なる。基盤層は中央部が標高37.15m、西端と東端は36.9mと中央部がやや高く、西と東に下がる。

(2) 遺構の概要

調査では、掘立柱建物や柵に伴う多数の柱穴やピット、土坑、溝、井戸を検出した。遺構は主に平安時代末期のもので、わずかに鎌倉時代・室町時代・江戸時代以降のものがある。

調査区西部で検出した南北方向の溝8・258は、野寺小路路面推定位置にあたる。溝8は東築地心推定ラインから西へ約6m、溝258は西へ8mの位置で検出しており、平安時代末期に掘削された野寺小路東側溝と推測される。建物は3棟分検出し、内2棟は建て替えがある。柱穴には地下式礎石が据えられているものもある。南北方向の柵1・2は建物の背面に位置する。井戸126は、建物3の南寄りで検出した。調査区東部では、円形や方形の土坑を検出した。土坑270は壁面の粘土層を抉った状態であった。いずれも土採り穴と考えられる。以下に主要な遺構について記述する。

(3) 遺 構

建物1A（図10、図版3） 調査区中央西寄り検出した、東西方向の掘立柱建物である。柱間は不等間隔で、西柱筋は0.75～2.0m、南柱筋は0.7～2.6m、東柱筋は1.0～2.2m、北柱筋は0.8～3.1mである。柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.25～0.5m、深さ0.1～0.55mである。柱穴64・19・236・35・43・132・200・204・176は礎石が据えられている。大きくは南北2間、東西3間と見られるが、修復による柱穴や東柱の柱穴が混在していると考えられる。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安時代末期	溝8・258、井戸126、建物1～3、柵1・2、土坑184・268、土坑群(土坑270ほか)、落込216、柱穴220、柱穴群	
鎌倉時代 ～室町時代	柱穴、土坑	
江戸時代	土坑	

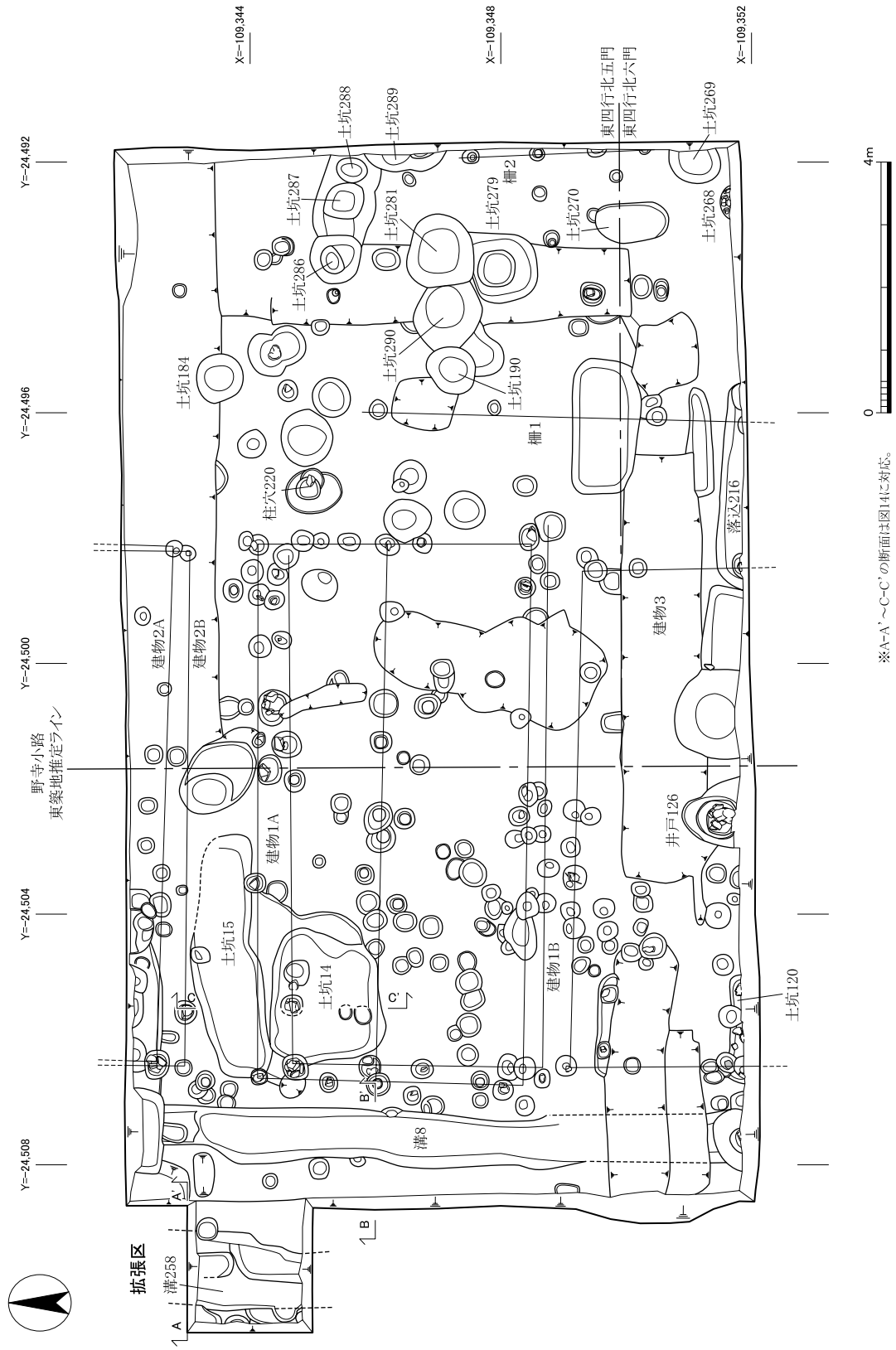
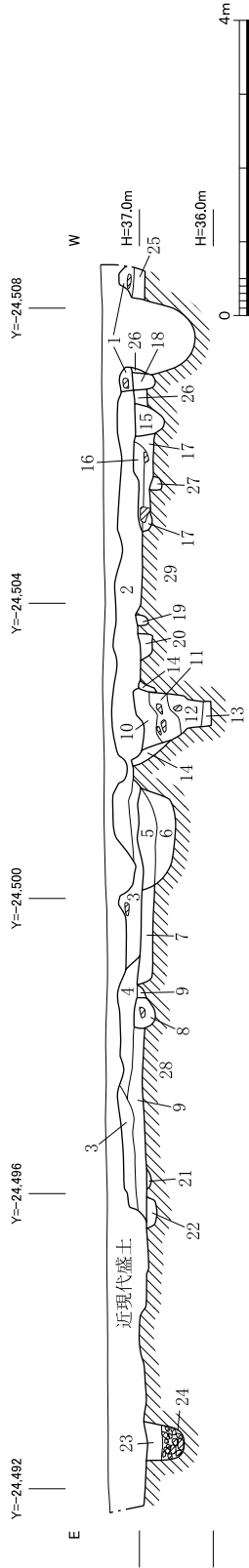


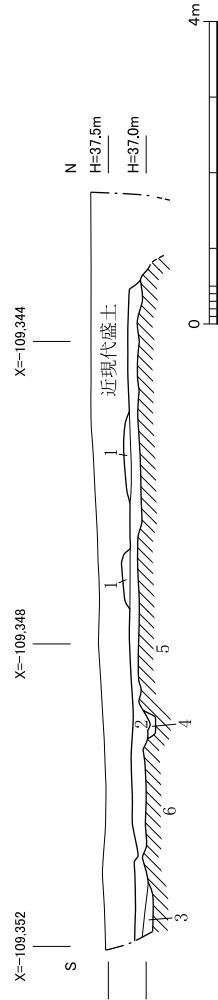
図8 調査区平面図 (1 : 100)

南壁



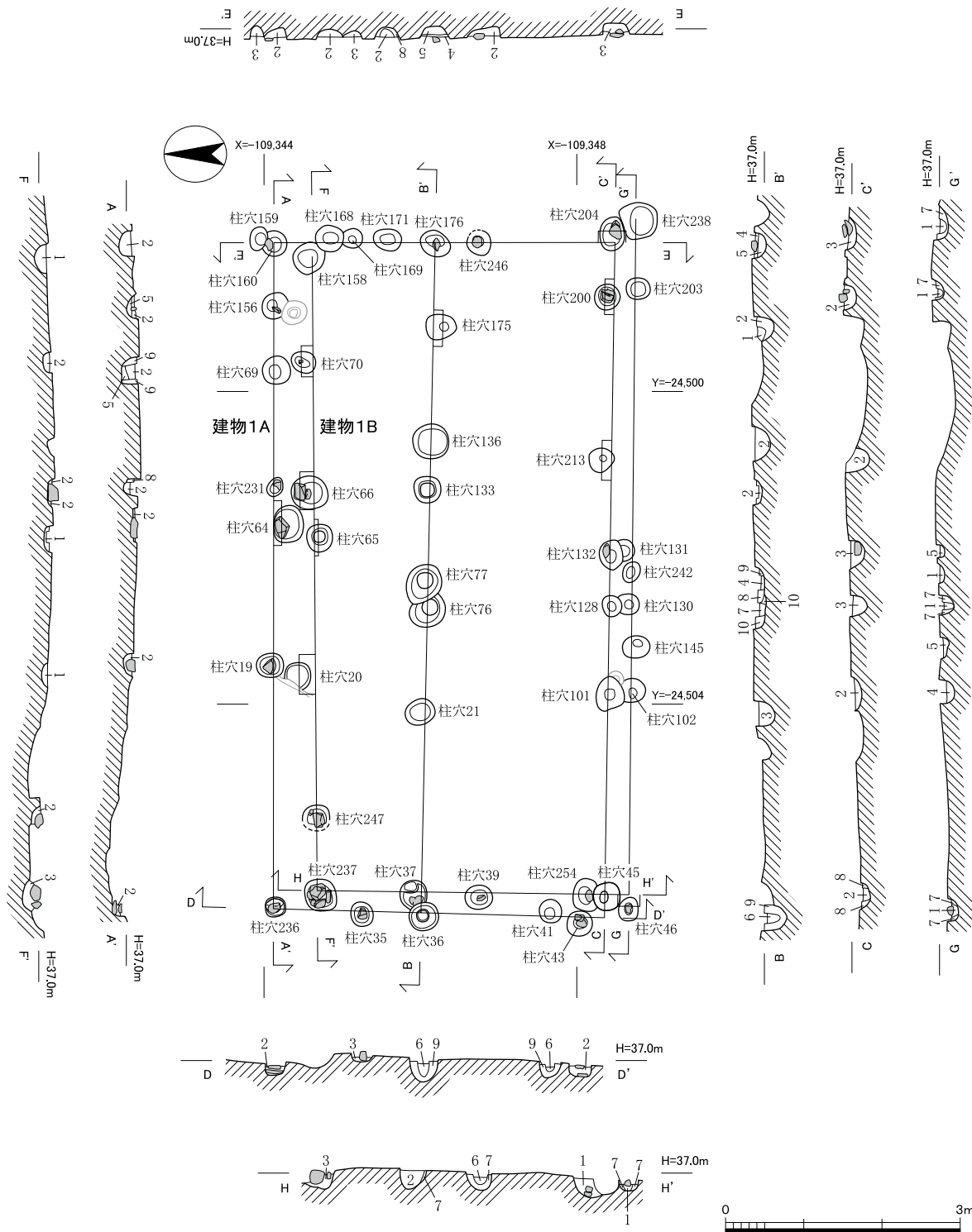
- 1 10YR3/2黒褐色細砂 φ15cmの石、φ1~3cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 2 10YR4/2灰黄褐色細砂+10YR6/6明黄褐色プロロック混じり φ1~5cmの礫多量含む
- 3 10YR5/2灰黄褐色細砂 φ2~5cmの礫やや多量含む
- 4 10YR3/1黒褐色シルト~細砂 φ0.5~1cmの礫やや多量、土師器片多量含む
- 5 10YR4/2灰黄褐色細砂 φ2~5cmの礫少量含む
- 6 10YR4/2灰黄褐色粗砂~礫
- 7 2.5Y3/2黒褐色細砂 φ0.5~1cmの礫中量、土師器小片含む
- 8 2.5Y3/1黒褐色細砂 粘質 炭少量含む(建物3 柱穴244)
- 9 2.5Y3/1黒褐色細砂(落込216)
- 10 2.5Y4/2暗灰黄色細砂+2.5Y6/4にぶい、黄色プロロック混じり
- 11 10YR4/2灰黄褐色細砂~粗砂 φ10~20cmの礫3つ、φ1~2cmの礫中量含む
- 12 10YR4/2灰黄褐色粗砂 φ2~3cmの礫多量含む
- 13 2.5Y6/4にぶい、黄色粗砂~砂礫
- 14 2.5Y4/1黄灰色シルト
- 15 10YR4/2灰黄褐色細砂 φ1~2cmの礫・土師器片・炭少量含む(建物3 柱穴248)
- 16 10YR3/2黒褐色細砂 φ1~6cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 17 10YR3/1黒褐色細砂+10YR4/3にぶい、黄褐色粘土プロロック少量混じり (土坑120)
φ~20cmの石4つ、土師器片・炭少量含む
- 18 10YR2/1黒色細砂+10YR4/4褐色粘土プロロック少量混じり φ1~3cmの礫少量含む(柱穴115)
- 19 10YR2/2灰黄褐色細砂+10YR4/3にぶい、黄褐色粘土プロロック少量混じり(柱穴122)
- 20 10YR2/3黒褐色細砂+10YR4/3にぶい、黄褐色粘土プロロック少量混じり 土師器片・炭少量含む(柱穴123)
- 21 10YR2/2黒褐色細砂 炭少量含む(柵1 柱穴296)
- 22 10YR2/2黒褐色細砂 φ1~2cmの礫少量含む
- 23 10YR2/2黒褐色細砂 土師器片・炭少量含む (土坑268)
- 24 10YR4/1褐灰色粘土 φ5~20cmの礫多量含む
- 25 10YR4/1褐灰色細砂 粘質 炭・土師器小片含む
- 26 10YR3/1黒褐色細砂+10YR5/4にぶい、黄褐色粘土プロロック少量混じり 土師器片・炭少量含む
- 27 10YR3/2黒褐色細砂+10YR4/3にぶい、黄褐色粘土プロロック少量混じり 土師器片・炭少量含む(柱穴118)
- 28 2.5Y4/1黄灰色粘土 (地山)
- 29 10YR6/6明黄褐色砂礫 (地山)

西壁



- 1 10YR4/2灰黄褐色細砂 φ1~3cmの礫・土師器小片含む
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 φ0.1~2cmの礫少量、炭・土師器小片含む
- 3 10YR4/1褐灰色細砂 粘質 炭・土師器小片含む
- 4 10YR3/2黒褐色細砂 炭少量含む
- 5 10YR6/4にぶい、黄褐色シルト (地山)
- 6 10YR6/6明黄褐色砂礫 (地山)

図9 調査区南壁・西壁断面図 (1:100)



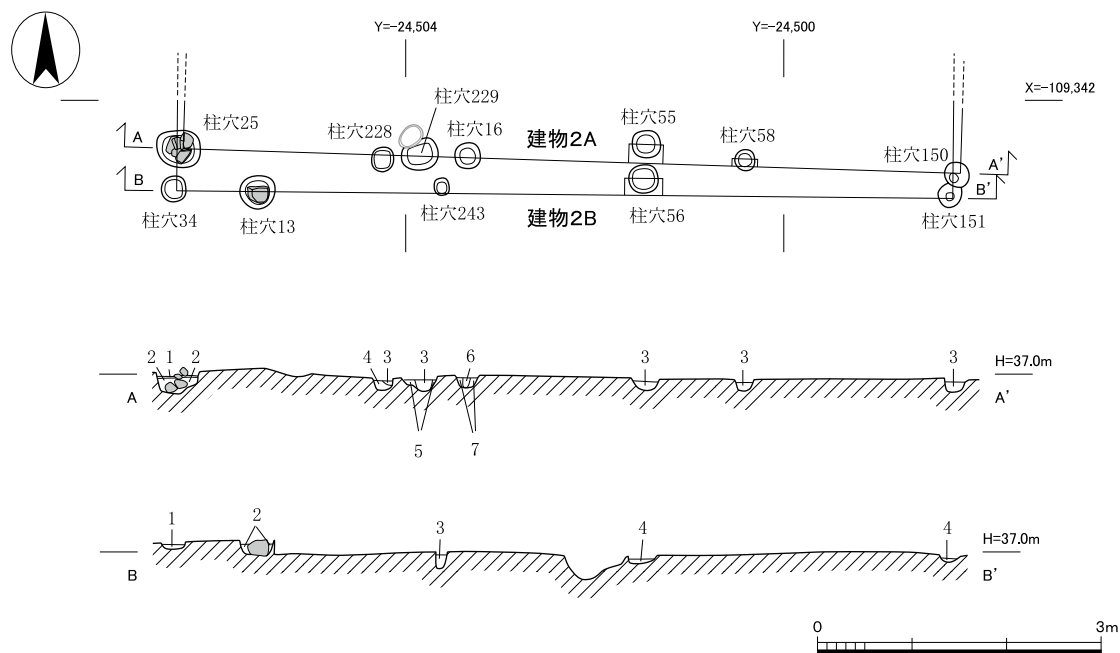
建物1A (A-A'~E-E')

- 1 10YR3/2黒褐色細砂 φ~4cmの礫少量含む
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 φ1~2cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 3 10YR3/2黒褐色細砂 土師器片・炭少量含む
- 4 10YR4/2灰黄褐色細砂 土師器片・炭少量含む
- 5 10YR3/2黒褐色細砂 φ~4cmの礫少量含む
- 6 10YR2/3黒褐色細砂 φ~5cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 7 10YR2/3黒褐色細砂 φ~3cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 8 10YR3/2黒褐色細砂 φ~4cmの礫少量含む
- 9 10YR3/2黒褐色細砂 土師器片・炭少量含む
- 10 10YR3/2黒褐色細砂 φ1~2cmの礫・土師器片・炭少量含む

建物1B (F-F'~H-H')

- 1 10YR3/2黒褐色細砂 φ1~3cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 土師器片・炭少量含む
- 3 10YR4/2灰黄褐色細砂 φ~20cmの礫多量含む
- 4 10YR4/2灰黄褐色細砂+10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック少量混じり土師器片・炭・φ1~5cmの礫少量含む
- 5 10YR4/2灰黄褐色細砂+10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック少量混じりφ1~2cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 6 10YR2/2黒褐色細砂 土師器片・炭少量含む
- 7 10YR3/2黒褐色細砂 土師器片・炭少量含む

図10 建物1A・1B実測図 (1:80)



建物2A (A-A')

- 1 10YR2/2黒褐色細砂 土師器片・炭含む
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 土師器片・炭、10YR4/4ブロック少量含む
- 3 10YR3/2黒褐色細砂 土師器片・炭含む
- 4 10YR3/2黒褐色細砂+10YR4/2灰黄褐色細砂混じり
- 5 10YR4/6褐色細砂+10YR4/6褐色ブロック多量混じり 炭含む
- 6 10YR2/1黒色細砂 土師器片・炭含む
- 7 10YR4/2灰黄褐色細砂～粗砂

建物2B (B-B')

- 1 10YR3/2黒褐色細砂 炭含む
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 炭・土師器片含む
- 3 10YR3/2黒褐色細砂 やや粘質 炭・土師器片含む
- 4 10YR3/2黒褐色細砂 φ1～2cmの礫・炭少量含む

図11 建物2A・2B実測図(1:80)

建物1B (図10、図版3) 調査区中央西寄り、建物1Aと重複して検出した。東西方向の掘立柱建物である。柱間は不等間隔で、西柱筋は0.9～1.4m、南柱筋は0.5～2.75m、北柱筋は1.25～3.1mである。柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.25～0.45m、深さは0.1～0.45mである。柱穴66・247・237・45・46には礎石が据えられている。建物1Aの建て替えと考えられる。

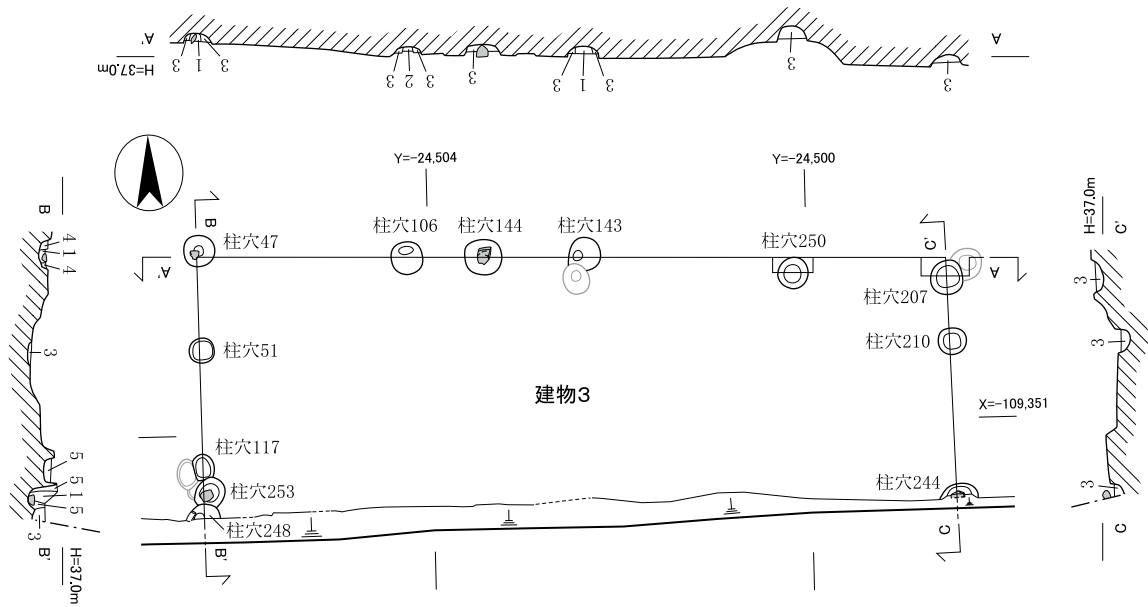
建物2A (図11、図版3) 調査区北端で検出した。東西方向の掘立柱建物と思われる。柱間は不等間隔で、南柱筋は0.9～2.3m、柱穴の平面形は円形もしくは楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.21～0.52m、深さは0.12～0.22mである。柱穴25には礎石が据えられている。

建物2B (図11、図版3) 調査区北端、建物2Aと重複して検出した。東西方向の掘立柱建物と思われる。柱間は不等間隔で、南柱筋は0.9～3.3m、柱穴の平面形は円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.39m、深さは0.1～0.2mである。柱穴13には礎石が据えられている。

建物3 (図12) 調査区南端で検出した。柱間は不等間隔で、西柱筋は1.0～1.8m、東柱筋は0.7～1.6m、北柱筋は0.8～2.2mである。柱穴の平面形は円形を呈し、検出面での規模は、径0.31～0.4m、深さ0.1～0.3mである。柱穴144は礎石が据えられている。

柵1 (図13) 調査区東寄りで検出した南北方向の柵列である。柱間は北から2.0m、2.6mである。柱穴の平面形は円形を呈し、検出面での規模は、径0.2～0.34m、深さ0.16～0.2mである。

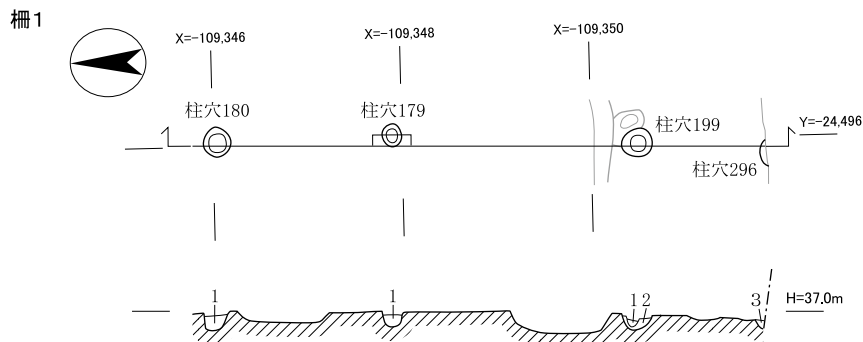
柵2 (図13) 調査区東寄りで検出した南北方向の柵列である。



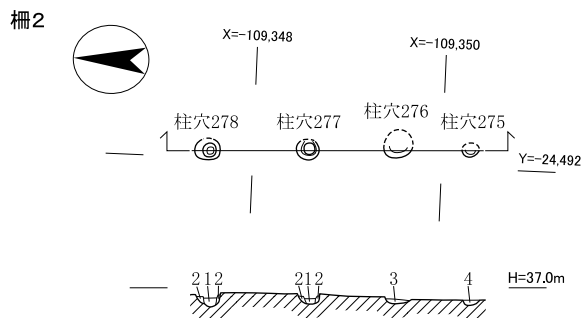
- 1 10YR2/2黒褐色細砂 炭・土師器片含む
- 2 10YR4/2灰黄褐色細砂 φ0.5~1cmの礫・炭・土師器片少量含む
- 3 10YR3/2黒褐色細砂 φ1~2cmの礫・炭・土師器片少量含む
- 4 10YR3/2黒褐色細砂 φ1~3cmの礫多量含む
- 5 10YR3/2黒褐色細砂+10YR4/2灰黄褐色細砂混じり 炭・土師器片含む



図12 建物3実測図 (1:80)



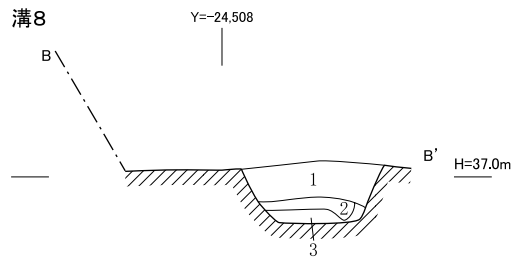
- 1 10YR3/2黒褐色細砂 φ1~3cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 2 10YR3/1黒褐色細砂+10YR5/6黄褐色粘土ブロック多量混じり
- 3 10YR2/2黒褐色細砂 炭少量含む



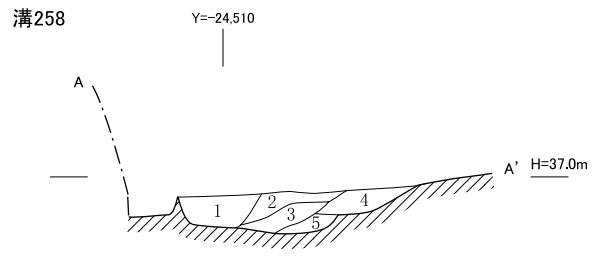
- 1 10YR3/1黒褐色細砂 φ~3cmの礫少量含む
- 2 10YR3/1黒褐色細砂 +2.5Y4/6オリーブ褐色粘土少量混じり
- 3 10YR4/4褐色細砂 +2.5Y3/2黒褐色細砂少量混じり φ~3cmの礫少量含む
- 4 2.5Y3/2黒褐色細砂 +2.5Y4/4オリーブ褐色細砂少量混じり φ1~3cmの礫少量含む



図13 柵1・2実測図 (1:80)

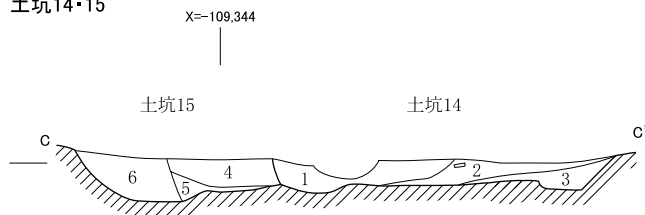


- 1 10YR2/2黒褐色砂泥 φ~3cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 2 10YR3/1黒褐色砂泥
+10YR4/2灰黄褐色細砂混じり 炭少量含む
- 3 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂



- 1 10YR3/2黒褐色細砂 やや粘質 炭含む
+10YR4/4褐色ブロック少量混じり
- 2 10YR3/2黒褐色細砂 やや粘質 炭含む
- 3 10YR3/2黒褐色細砂 やや粘質 炭含む
+10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量混じり
- 4 10YR3/2黒褐色細砂 炭含む
+10YR5/4にぶい黄褐色ブロック少量混じり φ1cmの礫極少量含む
- 5 10YR2/2黒褐色細砂 やや粘質 φ1~2cmの礫少量、炭含む

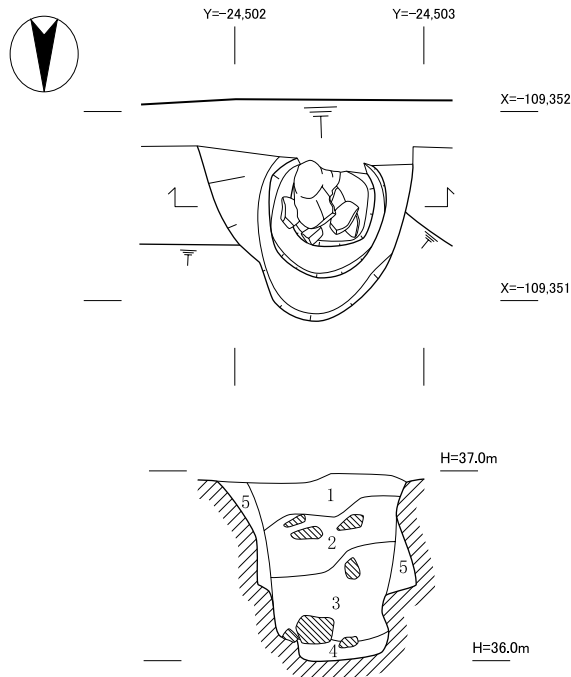
土坑14・15



※断面図の計測地点、A-A'~C-C'は図8に対応。

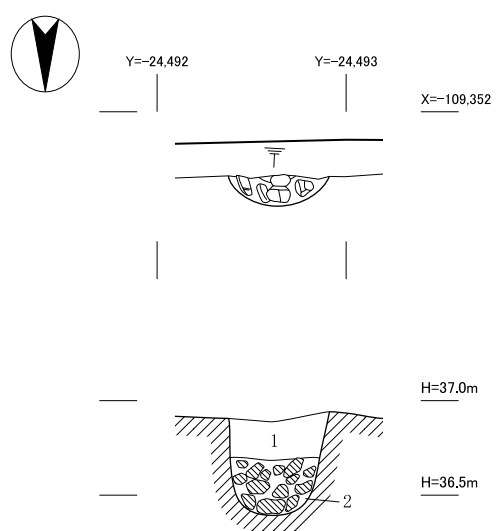
- 1 10YR2/2黒褐色細砂 φ~5cmの礫・炭少量含む
- 2 10YR3/2黒褐色細砂
+10YR7/6明黄褐色シルトブロック混じり
φ1~2cmの礫・土師器片・炭少量含む
- 3 10YR3/2黒褐色砂泥
φ~2cmの礫少量、炭極少量含む
- 4 10YR2/1黒色~10YR2/2黒褐色砂泥
炭少量、土師器片極少量含む
- 5 10YR3/2黒褐色微砂 土師器片・炭極少量含む
- 6 10YR2/1黒色砂泥 炭少量含む

井戸126



- 1 2.5Y4/2暗灰黄色細砂+2.5Y6/4にぶい黄色ブロック混じり
- 2 10YR4/2灰黄褐色細砂~粗砂
φ10~20cmの礫3つ、φ1~2cmの礫中量含む
- 3 10YR4/2灰黄褐色粗砂 φ2~3cmの礫多量含む
- 4 2.5Y6/4にぶい黄色粗砂~砂礫
- 5 2.5Y4/1黄灰色シルト(楕形)

土坑268



- 1 10YR2/2黒褐色細砂 土師器片・炭少量含む
- 2 10YR4/1褐灰色粘土 φ5~20cmの礫多量含む



図14 溝8・258、土坑14・15断面図、井戸126・土坑268実測図 (1:40)

井戸126 (図14) 調査区中央南壁付近で検出した。掘形は東西1.1m、南北0.8m以上、いびつな円形を呈する。井戸枠は確認できなかったが、内径は約0.6mの円形を呈し、井戸底部に長径0.2m大の礫が数個、その上に長径0.35m、短径0.2mの礫を検出した。井戸を埋める際の儀式に関連するものと考えられる。出土遺物はごく少量であるが、平安時代末期の土師器が出土している。

溝8 (図14) 調査区西部で検出した。南北方向の溝で、検出長は8.8m、幅は0.8～1.0m、検出面からの深さは0.2～0.35mである。底部の標高は北端付近で36.8m、中央で36.66m、南端で36.89m、底面は凹凸である。埋土から平安時代末期の土器が出土した。推定野寺小路の路面上にあたり、東築地心からは西へ約6mに位置する。

溝258 (図14) 調査区西側の拡張区で検出した。南北方向の溝で、検出長は1.6m、幅は0.8～1.1m、検出面からの深さは約0.2mである。底部の標高は最も深い位置で36.65m、底面は凹凸である。推定野寺小路の路面上にあたり、東築地心からは西へ約8mに位置する。

土坑14・15 (図14) 調査区西部北寄りで検出した。土坑14は南北約2.4m、東西約2.4m、土坑15は南北約1.2m、東西約4.5m、共に不定形である。検出面からの深さは0.14～0.2mである。土坑としたが、ほぼ同一の土で埋められており、窪みを埋め立てた整地と考えられる。平安時代末期の土器がまとめて出土した。

土坑268 (図14) 調査区南東部の南壁際で検出したため、全体は不明である。検出幅は東西0.5m、南北0.15m、検出面からの深さは0.5mである。径5～20cm大の礫が詰められた状態で、礫の隙間には粘質土が堆積する。湿気抜き土坑と考えられる。平安時代末期の土師器が少量出土した。

土坑群 代表的なものが調査区南東部で検出した土坑270で、検出規模は東西0.7m、南北1.2mの楕円形を呈し、深さは0.39mである。土坑の壁面が抉るように掘削されていることから、粘土層を採取する土採り穴と考えられる。埋土は灰黄褐色細砂層に地山ブロックが混じる。この土坑の周辺には土坑281・290・286～289などの円形状土坑が連なっており、これらも土採り穴の可能性はある。

4. 遺物

(1) 遺物の概要

遺物は整理コンテナにして17箱出土した。出土遺物には、土器・陶磁器類、瓦類、金属製品、石製品がある。全体の約9割を土器・陶磁器類が占める。

遺物は、平安時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代の各時代のものがある。

平安時代の遺物は土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・山茶碗・緑釉陶器・灰釉陶器・輸入陶磁器・瓦、鎌倉時代の遺物は土師器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器、室町時代の遺物は土師器、江戸時代の遺物は施釉陶器・染付などがある。

その他、石製品は砥石・碁石・滑石製鍋、金属製品は銭貨・釘が出土している。

各遺構から遺物は出土したが、小破片のものが多数で、実測できる遺物はわずかである。以下に主要な遺物について、概説する。

(2) 土器類 (図15、図版4)

溝258出土土器 (1) 土師器皿、須恵器壺、灰釉陶器片出土したが、いずれも小片である。1は土師器皿である。口径10.9cm、器高1.3cm、いわゆる「て」字状口縁である。京都Ⅳ期新段階¹⁾に属する。

溝8出土土器 (2～5) 土師器皿、須恵器甕、瓦器碗・皿、緑釉陶器碗、輸入陶磁器の白磁・青磁片が出土した。2・3は土師器皿、2は口径9.7cm、器高1.5cm、3は口径14.8cm、器高2.8cm以上である。4・5は瓦器皿と碗である。4は口径9.2cm、器高1.5cm、内面に粗いヘラミガキを施す。5は口径16.0cm、器高4.4cm、体部は緩やかに内湾し、口縁端部は丸くおさめる。内外面ともに密

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、山茶碗、緑釉陶器、灰釉陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品		土師器36点、瓦器7点、山茶碗1点、輸入陶磁器4点、瓦2点、石製品2点		
鎌倉時代	土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器				
室町時代	土師器				
江戸時代	施釉陶器、染付				
時期不明	金属製品				
合計		19箱	52点 (2箱)	0箱	17箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より2箱多くなっている。

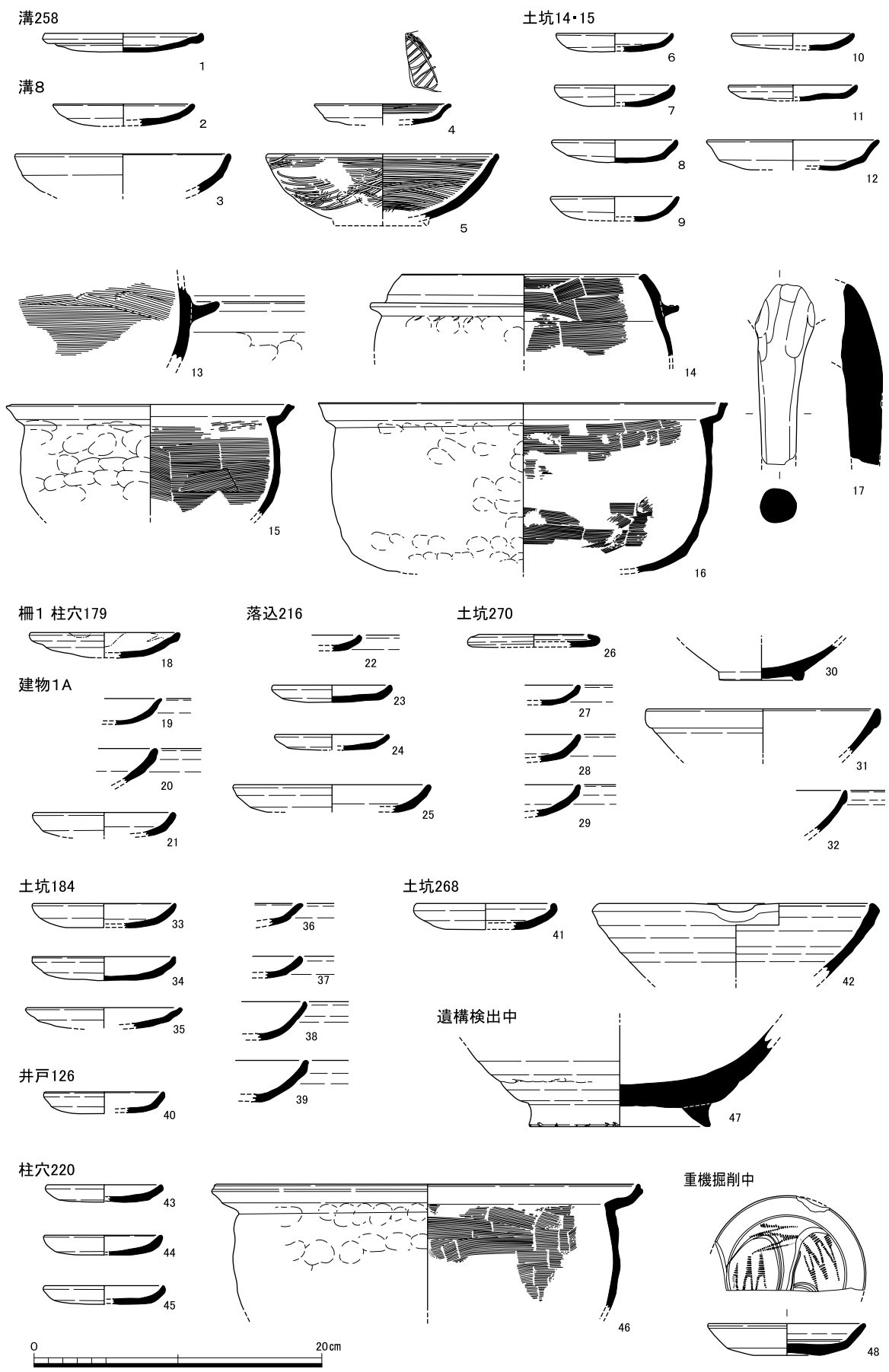


图15 土器実測図 (1 : 4)

なヘラミガキを施す。楠葉産である。京都V期新段階に属する。

土坑14・15出土土器（6～17） 土師器皿、須恵器甕、瓦器椀・鍋・羽釜、緑釉陶器椀、輸入陶磁器の白磁椀・青磁片などが出土した。6～12は土師器皿である。6～11は口径8.0～8.8cm、器高1.1～1.7cmの小型、12は口径11.8cm、器高2.1cmとやや大型の皿である。13は土師器の羽釜である。14～17は瓦器である。14は羽釜で、口径16.8cm、残存高5.7cmである。口縁部は内傾し、体部は膨らむ。15・16は鍋で、蓋の受けが付く。15は口径19.2cm、残存高7.7cm、体部は膨らむ。16は口径28.4cmとやや大型で、体部はやや膨らむ。15・16ともに内面にハケメ調整を施す。17は三足釜の脚部である。京都VI期古段階に属する。

柵1出土土器（18） 土師器皿、輸入陶磁器の白磁片が出土している。18は「て」字状口縁の土師器皿、口径10.3cm、器高1.8cm、底部内面と口縁端部に煤が付着しており、灯明皿として使用している。京都V期に属する。

建物1A出土土器（19～21） 出土遺物は小片のものが多いため、3点のみ図化した。19～21は土師器皿である。19・20は口縁部のみである。21は口径9.3cm、器高1.7cm。口縁部から体部外面に二段ナデを施し、口縁端部は断面三角形状を呈する。京都V期に属する。19は柱穴176、20は柱穴64、21は柱穴136から出土した。

落込216出土土器（22～25） 土師器皿、須恵器甕が出土している。22～25は土師器皿、23・24は口径7.8cm・8.1cm、器高1.2cm。25は口径13.6cm、器高1.9cmの大型である。京都V期に属する。

土坑270出土土器（26～32） 土師器皿、須恵器甕、瓦器片、緑釉陶器椀、輸入陶磁器の白磁椀などが出土している。26～29は土師器皿である。26は口径7.6cm、器高0.9cm、コースター型。29は口縁部から体部外面に二段ナデを施し、口縁端部は断面三角形状を呈する。京都V期に属する。30～32は輸入陶磁器の白磁椀、31は口径15.9cm、31・32ともに口縁端部が玉縁状に肥厚する。

土坑184出土土器（33～39） 土師器皿、須恵器甕・鉢、瓦器椀、輸入陶磁器の白磁椀・青磁皿、瓦などが出土している。33～39は土師器皿である。33～35は口径9.9～10.6cm、器高1.4～1.7cmである。39は口縁部から体部外面にナデの浅い窪みがある。京都V期に属する。

井戸126出土土器（40） 土師器皿、須恵器甕、瓦などが出土したが、いずれも小片である。40は土師器皿、口径8.2cm、口縁端部外面に面をもつ。京都V期に属する。

土坑268出土土器（41・42） 土師器皿、須恵器鉢が出土した。41は土師器皿、口径9.6cm、器高1.8cm、口縁部外面に面をもち、端部内面は肥厚する。京都V期に属する。42は須恵器片口鉢、口径19.0cm、口縁端部は面をもつ。

柱穴220出土土器（43～46） 土師器皿、須恵器甕、瓦器鍋、焼締陶器などが出土した。43～45は土師器皿である。口径7.9～8.3cm、器高1.2～1.4cm、口縁部外面に面をもち、口縁端部は断面三角形を呈する。京都V～VI期に属する。46は蓋の受けが付く瓦器鍋である。口径39.3cm、体部はやや膨らむ。

その他出土土器（47・48） 47は山茶椀鉢の底部である。底径12.5cm、残存高7.1cm。高台は貼り付け、底部外面に粘土を継ぎ足す。遺構検出中に出土した。48は輸入陶磁器の青磁皿、口径10.9cm、

器高4.6cm、高台は平底無高台、内面に櫛描文を施す。重機掘削中出土した。

(3) 瓦類 (図16)

瓦類には、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦があるが、出土量は少量で、軒瓦は2点のみである。

瓦1は蓮華文軒丸瓦、複弁で、子葉は盛り上がり輪郭線がある。間弁はY字形。蓮子は圏線が巡る。外区は珠文が巡る。胎土は密で砂粒を含み灰白色、焼成は良である。土坑120から出土した。

瓦2は唐草文軒平瓦、外区に珠文が密に巡る。胎土は密で浅黄橙色、焼成は良である。溝8から出土した。

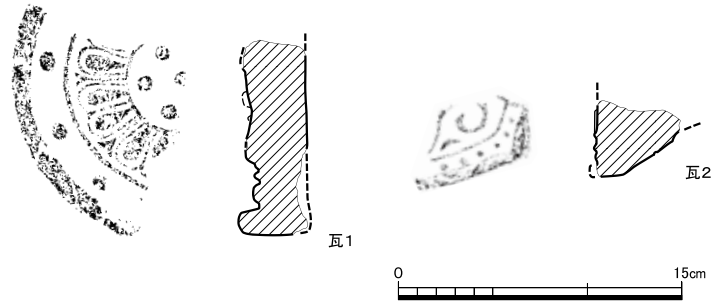


図16 軒瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

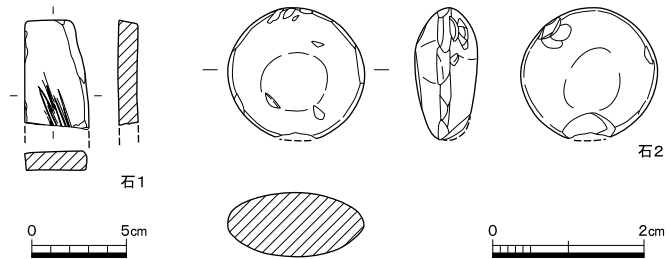


図17 石製品実測図 (石1は1 : 4、石2は1 : 1)

(4) 石製品 (図17・18)

石製品には砥石・碁石・滑石製鍋がある。

石1は扁平な砥石、筋状の使用痕がある。厚さ1.1cm。石材は白色の粘板岩系で「鳴滝砥石」と通称される仕上げ用の砥石である。柱穴220から出土した。

石2は碁石、長径1.80cm、短径1.75cm、厚さ0.9cm、重さ3.822g。面取りの痕跡が残る。色調は黒緑色である。石材は、比重が2.61を示すことや割れ口がガラス質で濃緑色を呈するなどの特徴から、碧玉である。遺構検出中に出土した。



図18 石製品 (石2)

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年

750頃	840頃	930頃	1010頃	1080~90頃	1180頃	1270頃	1360頃	1440頃	1500頃	1580~90頃	1660頃	1740年代頃	1820年代頃	
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	
古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新

5. まとめ

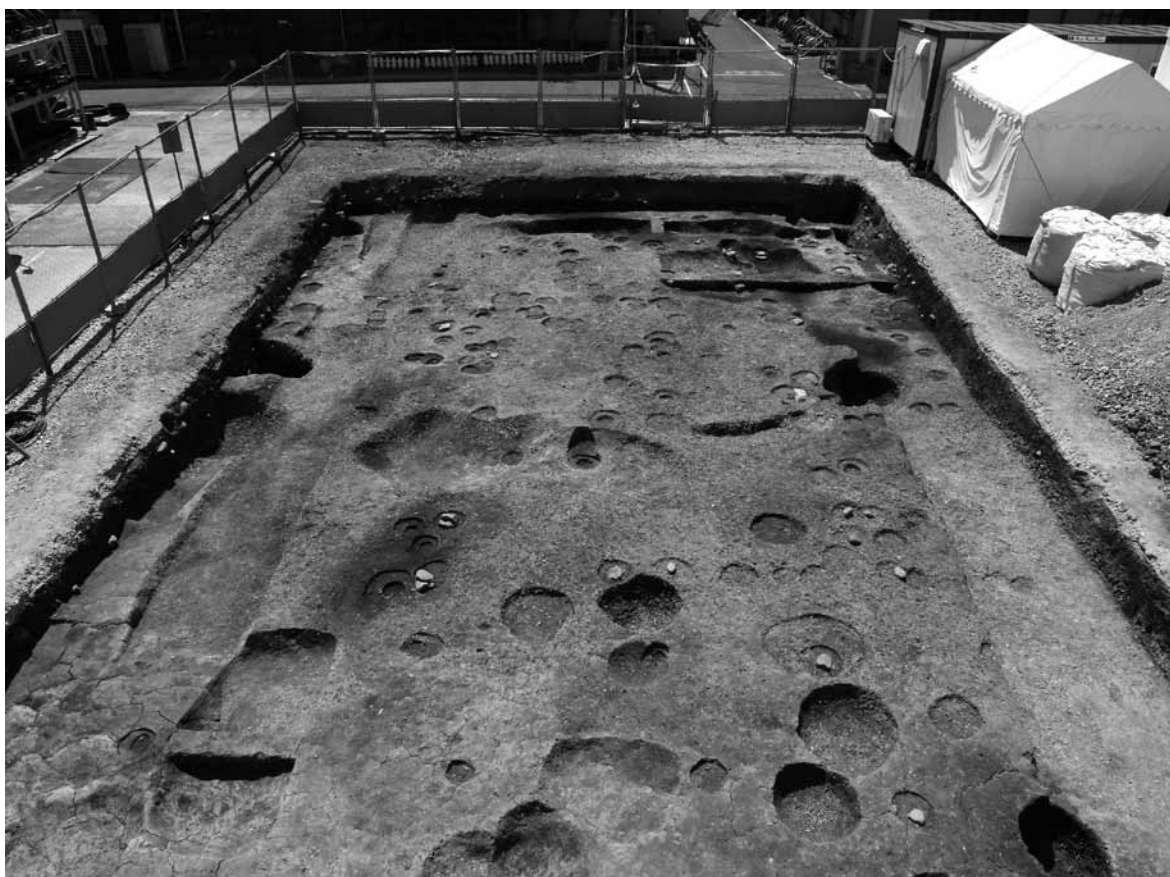
今回の調査では、平安時代末期の野寺小路東側溝、掘立柱建物、井戸などを検出した。建物は野寺小路に面して、少なくとも3棟が建っていたと考えられ、中央及び北側の建物は建て替えが行われていた。また調査区西端で検出した野寺小路東側溝は、推定東築地心より約6m西へ寄っており、平安時代末期には付け替えられたものと考えられる。

平安時代末期の道路に面して建物が建つ町家型の建物群は、これまでの周辺調査からは確認されておらず、今回、このように建物や野寺小路東側溝が西へ寄った位置で見つかったことも含め、当地が平安時代末期に再開発されたことを物語るものと言えよう。

また、今回の調査では平安京造営時に施工された野寺小路に関する遺構や建物などの遺構が検出されていない。当地から北東に約200mの調査8では、西堀川が平安時代中期には完全に埋没し、その後、氾濫が4～5回はあったことが判明している。

ところで、野寺小路は二条大路より以南の調査（調査24・25・29・33）では、西堀川埋没後の平安時代後期以降、代替えの水路として路面に幅約10m、深さ1.8mの川（野寺小路川）が掘削され、やがて、鎌倉時代から室町時代には埋没していることが判明している。検出されている野寺小路川は、北は調査33から南は調査24までの南北約240m分確認されており、南流する。しかし、二条大路より北に位置する今回の調査では川跡は検出できなかった。野寺小路川は西堀川埋没後の紙屋川の排水路の一つと考えられており、その経路として二条大路付近で西流させた可能性を考えさせる成果となった。周辺での今後の調査に期待したい。

圖 版



1 調査区西部全景（東から）



2 溝8（北東から）



1 調査区東部全景（北から）



2 拡張区 溝258（南から）



3 井戸126（北から）



4 土坑268（北から）



1 建物1 A 柱穴64 (北から)



2 建物1 A 柱穴204 (東から)



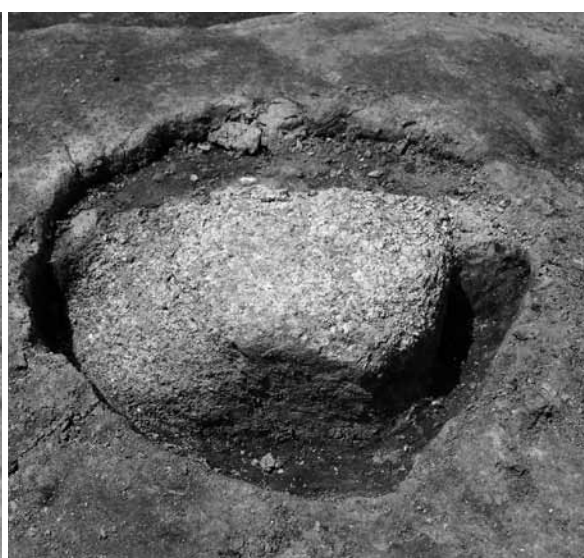
3 建物1 A 柱穴236 (東から)



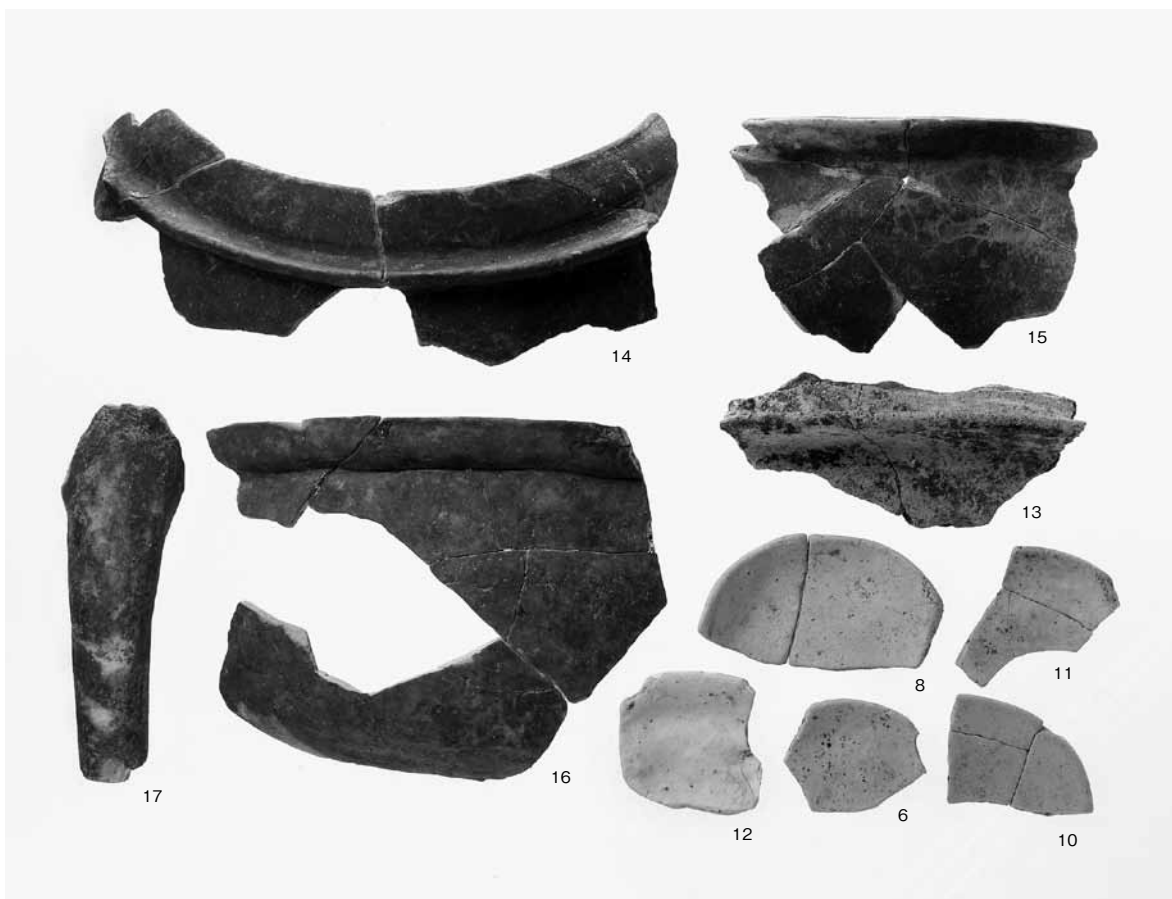
4 建物1 B 柱穴237 (西から)



5 建物2 A 柱穴25 (南から)



6 建物2 B 柱穴13 (南から)



報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうにじょうにぼうじゅうにちょうあと・にしのきょういせき							
書名	平安京右京二条二坊十二町跡・西ノ京遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2019-2							
編著者名	近藤 章子							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2019年11月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 にしのきょういせき 西ノ京遺跡	きょうとしなかがきょうく 京都市中京区 にしのきょうみなみかみあいちょう 西ノ京南上合町 46番地	26100	1 461	35度 00分 51秒	135度 43分 54秒	2019年5月 14日～2019 年6月6日	174㎡	建物建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡 西ノ京遺跡	都城跡 散布地	平安時代末期 鎌倉時代 ～室町時代 江戸時代	溝、井戸、建物、 柵、土坑、土坑群、 落込、柱穴、柱穴 群 柱穴、土坑 土坑	土師器、須恵器、黒色 土器、瓦器、山茶椀、 緑釉陶器、灰釉陶器、 輸入陶磁器、瓦、石製 品 土師器、瓦器、焼締陶 器、施釉陶器 施釉陶器、染付		野寺小路東側溝と 野寺小路に面する 建物群を検出した。		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2019-2
平安京右京二条二坊十二町跡・
西ノ京遺跡

発行日 2019年11月29日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961